

# 平成25年度病害虫発生予察情報 特殊報第2号

平成25年11月26日  
岩手県病害虫防除所

## オクラ輪紋病の発生について

### 1. 発生状況

- (1) 岩泉町および田野畑村では平成22年頃からオクラが導入されたが、平成24年に6月頃から葉に輪紋症状が発生した。翌平成25年にも6月中旬以降から同症状が多発、ほぼ全てのほ場に拡大し、大きな被害をもたらした(写真1, 2, 3)。
- (2) 農林水産省横浜植物防疫所に同定を依頼したところ、*Ascochyta phaseolorum* Saccardによるオクラ輪紋病であることが判明した。本病は、*Phoma okra*によるオクラ斑点病に類似するが、宿主上で形成される分生子の隔壁数の相違により斑点病と区別される(写真4)。なお、本病は県内初確認となる。

### 2. 病徴

病徴は、葉に暗褐色の円形病斑を生じ、その後病斑上に黒褐色の同心輪紋が形成される(写真1)。のちに病斑中央部は退色して、表面に小黑粒点(分生子殻)を散生する(写真2)。葉の病斑は裂開または穿孔しやすく、果実では若いさく果が侵され、腐敗枯死することがある(成田, 1976)。

### 3. 病原菌の宿主と伝染環

- (1) 本病原菌 *A. phaseolorum* Saccard はオクラ、タチアオイなどアオイ科のほか、ナス科(ナス、ピーマン、トマト、ジャガイモ)、ウリ科(キュウリ、カボチャ)、マメ科(インゲン、アズキ、ダイズ)、キク科(ゴボウ、キンセンカ)、ヒユ科(ヤリケイトウ)などに寄生し、同様の病徴を示す。
- (2) 病斑上の分生子殻で越冬し、翌年これより分生子を飛散して伝染する。



写真1 葉の輪紋病斑

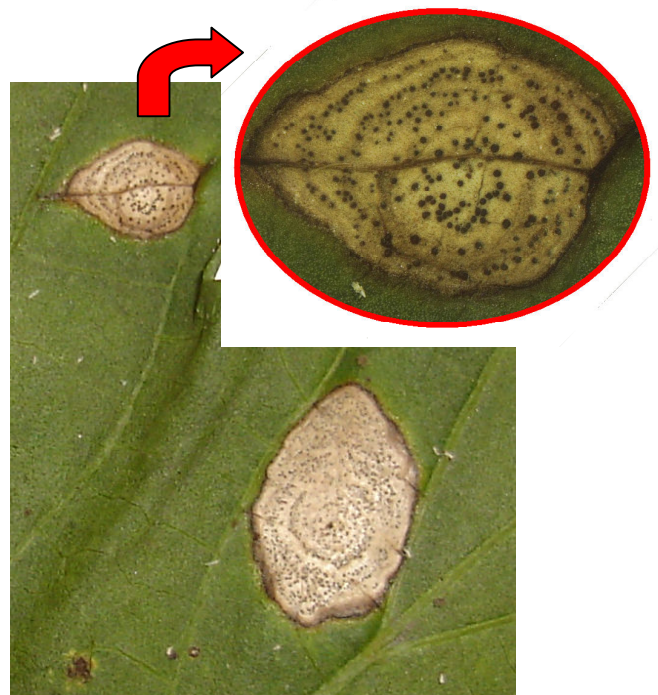


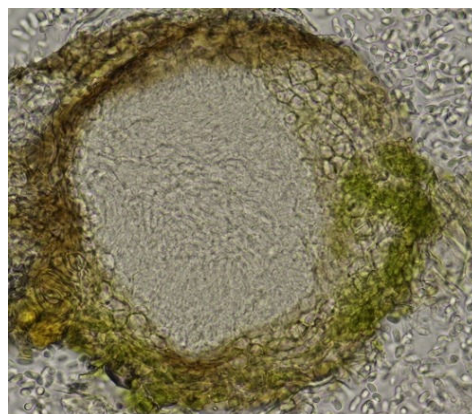
写真2 退色した輪紋病斑と分生子殻



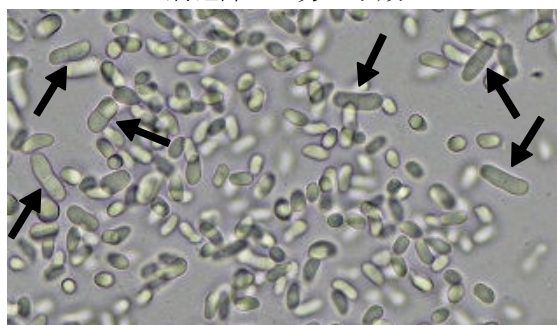
写真3 ほ場での発生状況



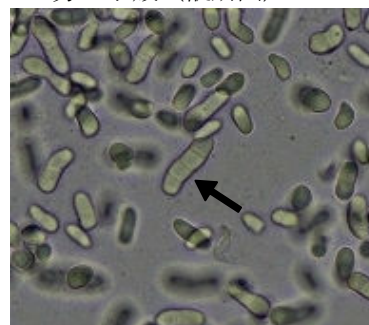
病斑部上の分生子殻



分生子殻（縦断面）



単胞及び1隔壁（矢印）の分生子



3隔壁の分生子

写真4 *A. phaseolorum* Saccard の分生子および分生子殻

分生子殻：単生，淡褐色～黒褐色，球状～偏球状，頂部に孔口を有する．大きさは150-210X140-200 $\mu$ m.

分生子：無色，楕円形の単胞（5.6 X 2.5 $\mu$ m）が主，やや屈曲した円筒形の1～3隔壁を有するものも認められた．

（原図提供：農林水産省横浜植物防疫所、無断転載禁止）

#### 4. 防除対策

現在、本病に登録のある薬剤はないので、以下の耕種的対策を行う。

- (1) 病斑上で越冬した分生子殻が翌年の伝染源となるので、病葉などの残さをほ場に残さないようにする。
- (2) 定植後は、ほ場の過湿を避け、病葉を見つけ次第すみやかに処分する。
- (3) 連作を避ける。